



全国  
家康公  
ネットワーク  
SINCE 2015

# 第3回徳川家康公顕彰作文コンクール 静岡県小中学生の作品21点を表彰

公益財団法人徳川記念財団(徳川恒孝理事長)は平成29年7月〜9月、静岡県内の小中学生を対象に「静岡と徳川家康公について」を課題とした「第3回徳川家康公顕彰作文コンクール」を開催。233点の作文が寄せられ、審査員10名(審査員長・中村羊一郎氏)による審査により、21点を入賞作品に選びました。

表彰式は11月11日(土)、静岡商工会議所静岡事務所会館5階ホールで開催し、入賞者に賞状と記念品を渡しました。

表彰式終了後には徳川記念財団理事長で、徳川宗家18代当主の徳川恒孝氏が「大政奉還後も受け継がれた徳川の意志」と題して記念講演を行いました。

入賞者と最優秀作品「徳川賞」を受賞した作文は次の通り。



## 〔入賞者〕(敬称略)

〔徳川賞〕松下京湖「家康賞」金原天真、鈴木沙彩「徳川みらい学会賞」林貴美  
〔静岡県知事賞〕萩本大翔「静岡県教育長賞」鎌田航生「静岡市長賞」柿崎寛人  
〔浜松市長賞〕五田市七斗「静岡市教育長賞」柳川真惟子「浜松市教育長賞」白須翔空「静岡県私学協会会長賞」平野杏奈「静岡県商工会議所連合会会長賞」浅井優斗「静岡商工会議所会頭賞」山本奈実「浜松商工会議所会頭賞」吉田新之助「静岡新聞社賞」牧野青葉「静岡放送賞」小池穂律「中日新聞東海本社賞」齊藤叶恵「NHK静岡放送局長賞」百竹陽奈子「テレビ静岡賞」古牧航大  
〔静岡第一テレビ賞〕白須湖々美「静岡朝日テレビ賞」紅林宗佑

## 〔徳川賞〕

### 「家康の読書術を学ぶ」



松下京湖さん  
(牧之原市立相良小学校5年)

皆さんは、徳川家康が、読書好きで、本を大切にしていたことを知っていますか。五月八日、私の通う相良小学校で静岡大

学名誉教授小和田哲男先生講演会が開きされました。「歴史から学ぼう家康の読書術」というお話でした。五、六年生二百人と保ご者、市内外の方が参加しました。

私は、お城について二年生から自由研究を続けているので、お話を聞くのがとても楽しみでした。お城研究では、駿府城・諏訪原城・浜松城といった戦国時代の家康が関わったお城を見学に行っています。

徳川家康も戦国時代は武将として常に戦うことを優先していて、本はあまり読んでなかっただろう。江戸幕府を開いて平和になってから、政治や経済のために本を読むようになったと思っています。しかし、それでは天下をとった際の家来や町民のリーダーとして間に合いません。先生のお話から、家康は子供の頃からかま倉時代の歴史書・兵法書・古典文学や歌集など様々な種類の本を好んで読んでいたことを知りました。兵法書は戦い方だけではなく、家来や相手との接し方も学ぶマナー本としても重要みたいです。

家康は「吾妻鏡」「大鏡」のように鏡がつく歴史書を多く読んだそうです。歴史は過去をうつし、未来を照らすものという意味から「吾妻鏡」は家康の祖

先である源氏がどのように平家を倒していったのか、同じ失敗をくり返さないこと、目標をもつてがんばることの意味を学んだということです。和歌も読めないと大名としてかっこ悪いようで勉強したそうです。私は、いつも物語など同じような本ばかり読んでいたので歌集なども読んでみようと思いました。

昔はお寺が学校でした。家康は人質時代に臨濟寺で雪齋おしょうから多くのことを学びました。夏休み、私と弟も近くのお寺の勉強会に参加させてもらいました。とても、落ち着いた気持ちで勉強できました。

私たちは、家庭や学校で本を読みながら、勉強をしないと常に言われます。私は「なぜ、今川の人質でいたのに熱心に勉強したのですか。」と小和田先生に質問しました。「人質であっても、武士の家の当主として家を守っていく、いつか岡崎を取り戻すという信念をもっていた。あなたたちががんばる気持ちを常に忘れてはいけない。子供のころに読んだ本は大きくなって必ず役に立つ。本を読みましよう。」と先生は説明してくれました。

図書館などでも、家康を主人公にした本は、たくさんあります。家康がみんなのあこがれだからだと思います。私は家康の読書体験を知り、本の大切さがわかりました。また、未来のことが解らなくても、努力する気持ちを家康の行動から学びました。読書は、今も昔も大きなエネルギーになります。この夏、もう何冊か読書してみようと思います。